

山ごころ

大滝せせらぎ

里ごころ

はたおと秩父

秩父市

地域おこし協力隊たより

二月号

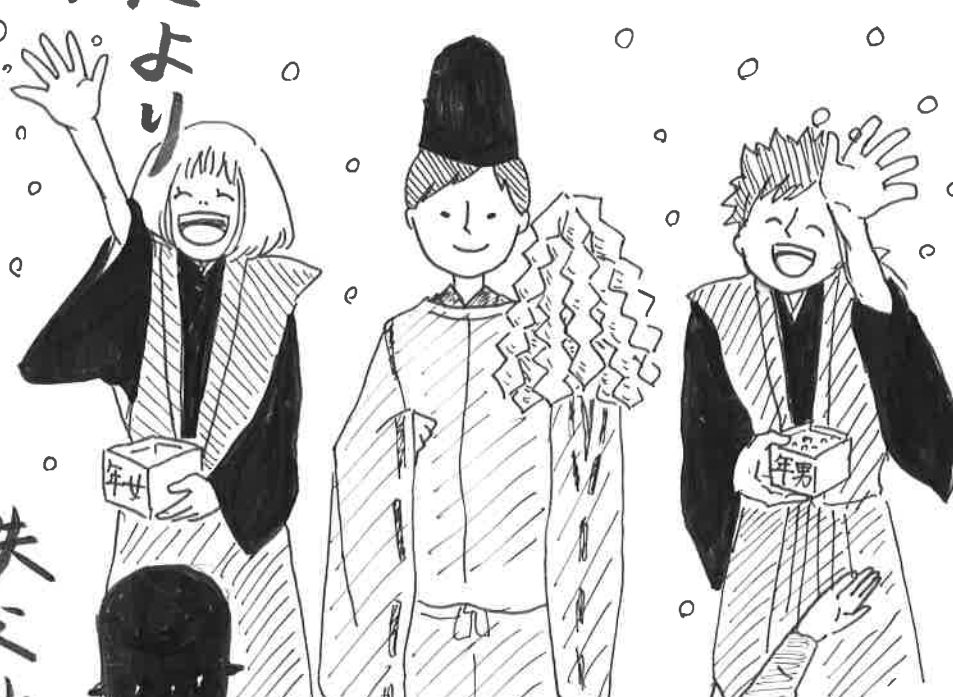
(No. 27)



佐俣  
隊員



吉本  
隊員



秩父神社

鬼やらい

かなわんぞ

かなわんぞ

# 地域おこしフェア

1月18日、東京ビッグサイトにて行われた「移住・交流&地域おこしフェア」に、佐俣隊員と視察へ行きました。フェアでは全国の自治体が移住に関する情報提供や相談等も行っていました。話を聞いてみて私が一番興味深かったのは、茨城県笠間市の取り組みです。笠間市には「滞在型市民農園」というものがあり、そこでは小屋(キッチン・風呂・トイレ・ロフト付き)が併設された畑を年間40万円貸し出していているそうです。実際に利用していた方の一人は、東京在住で金曜夜に農園へ行き、土日は畑をして楽しんでいました。夫婦で通い、小屋で二人で過ごす時間はまるで新婚生活のようだったと話してくれました。退職した現在は畑付きの家を借り、ひと月の半分を笠間市で過ごすとしています。

またフェアでは多くの移住に関する情報誌が配られていましたが、興味深いのは、どの情報誌でも、地域の魅力を紹介するのではなく、地域に住んでいる魅力的な人々を紹介していたことです。地域の魅力というものは、日当たりが良い、温暖な気候だ、水が美味しい、というようにどこも似たり寄ったりなものになってしまいがちです。しかしそこに住む人は、そこにはありません。魅力的な人や、楽しんでいる先輩

移住者を紹介すること、  
「自分もそこで暮らしてみたい!」と感じるの  
ではないかと思いま  
した。

大滝をはじめ秩父では人口が減少し空き家や休耕地が増えています。一方、秩父に移住してきた方も、今回の視察で知った色々な取り組みを参考に、秩父でも移住者を増やす取り組みができるのではと思いました。



茨城県笠間市 滞在型市民農園「笠間ライオンガーデン」

## 三十槌の氷柱ライトアップ

奥秩父大滝の冬の風物詩である「三十槌の氷柱」は連日テレビで紹介され、多くの観光客が見に来ています。また1月17日からはライトアップが実施されており、こちらも人気です。私もライトアップを観望しましたが、赤色や青色に照らし出された氷柱が、川面にも映り込んで、とても綺麗でした。

三十槌の氷柱ライトアップ  
開催期間：平成27年1月17日～2月15日  
平日 17:00～19:00  
土曜・休日 17:00～21:00  
お問い合わせ：0494-55-0707  
(秩父観光協会大滝支部)

# ガイド養成講座

1月7日、秩父地域振興センターにて、「秩父エコツアーガイド養成講座」が行われました。講師には国土交通省観光庁より「観光カリスマ」に指定されている、山田桂一郎氏が登壇され、「エコツアーリズムによる地域振興」と題してご教授頂きました。

エコツアーリズムとはエコロジーツーリズムの略称です。エコロジーとは、「自然環境や歴史、生活文化など、人類が地域の中で築き、培ってきたもの」を意味しています。したがってエコツアーリズムとは「各地域において培われてきた様々な魅力を観光する」ことです。山田氏によると、エコツアーリズムは海外では良く認知され、ガイドも多々いるようですが、日本における認知度はまだまだ低いようです。

今日、エコツアーリズムが注目され始めているのは、エコツアーリズムが持続可能であるからです。一般的に何らかの産業を起すと、地域の資源を消費しなければなりません。その為資源が枯渇すれば、その産業は辞めざるをえません。しかしエコツアーリズムは資源を消費することなく、利益を生み出すことができます。また地域で培われてきた、あるがままの自然や文化を紹介することが大争なので、工場などの設備を整備する必要もありません。

以前大滝は鉱山業や林業で栄えましたが、現在はどちらも、昔ほどの活況はありません。また畑は傾斜地で、大規模化・機械化の進んだ平坦な畑のようにありません。

しかし大滝には杜大な自然があります。昔の文化が残っています。これは他の地域には無い、とても魅力的な観光資源です。大滝にある自然や文化を観光客に紹介し、体験して頂いて、お金を落として頂くことができるのでは、と私は考えています。

寒い冬には薪ストーブに薪風呂。これも他の地域では経験できない貴重な文化です。

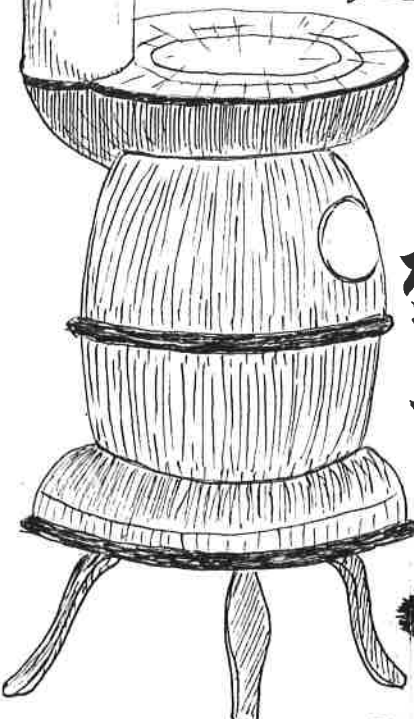
だるまストーブ

## 秩父市地域おこし協力隊

秩父市  
地域おこし協力隊 ↓  
Facebook  
ページを  
よろしくお願  
いします!



文責：吉本 隆久  
連絡先 秩父市大滝総合支所 地域振興課  
電話番号：0494-55-0862 (課内直通)  
メールアドレス：ccb.localact@gmail.com



# 秩父札所甲午歳総開帳

## 第三十一番 鷲窟山 観音院

深山路を かきわけ尋ね 行きみれば

鷲のいはやに ひびく滝つ瀬

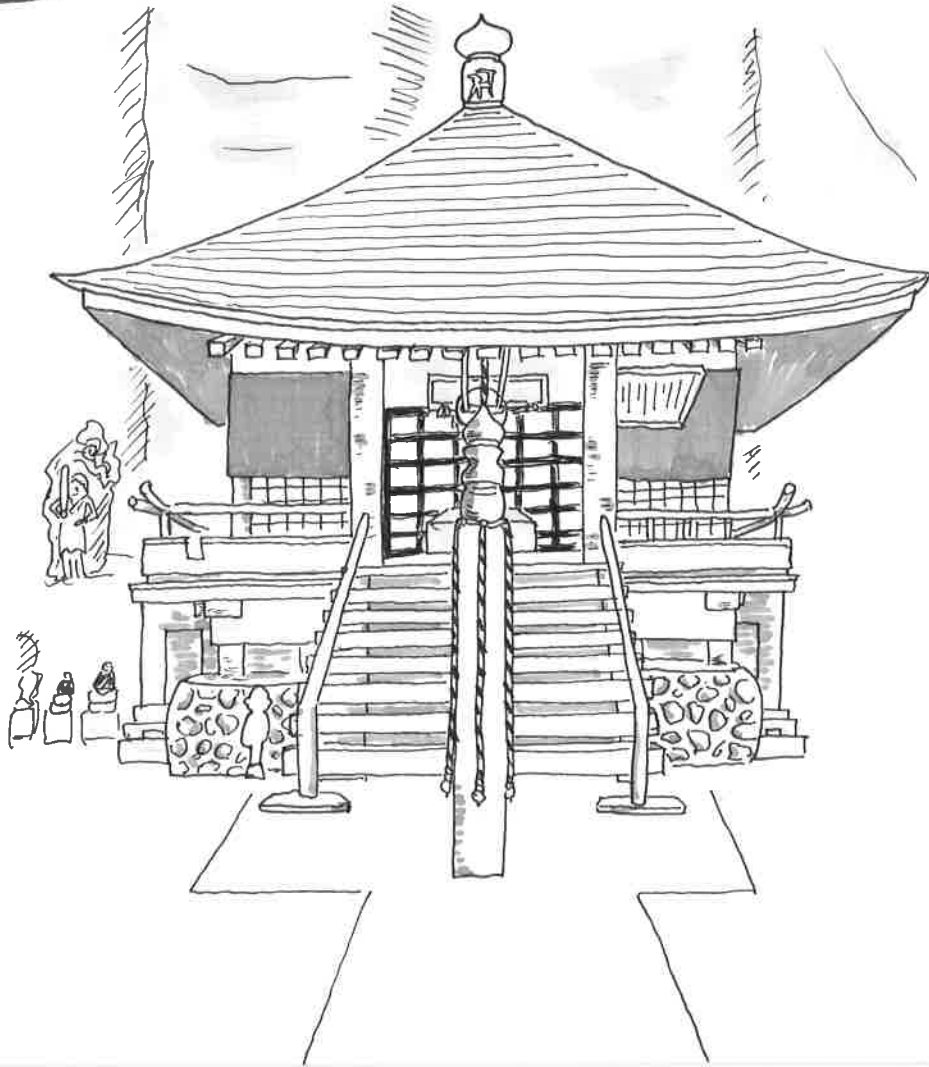
仁王門をくぐり、二九六段の厄除けの石段を登ると三方岩山に囲まれた本堂が現れます。本尊は聖観音像で行基の作と云われています。この本尊は平将門の乱の際に粉矢しました。鎌倉時代になり畠山重忠が狩りに来た時鷲の巢をみつけ、家臣に矢を射させたところ、何度射つてもはね返されてしまいました。不思議に思つて巢を下ろしてみると粉矢した観音像があつたそうです。重忠は家臣に命じ、この地にお堂を建立しました。

本堂の背後には観音山の岩盤が立ち、不動明王を祀る聖浄の滝が流れています。また岩壁には十万躰以上といわれる磨崖仏(岩壁に直接彫られた仏像)が彫られています。この磨崖仏は弘法大師が爪で一夜にして彫つたという伝説があり、「爪彫り千躰仏」といわれています。

31番行くはら  
もみよう!

### 地蔵寺

三十一番に向かう途中にあり、一万体以上の水子地蔵が山の斜面に立っています。一体一体に風車がそえられ、圧倒される景色です。



# 秩父札所甲午歳総開帳

## 第三十二番 般若山法性寺

願わくは 般若の船に のりを得ん

いかなる罪も

浮かぶとぞ聞く

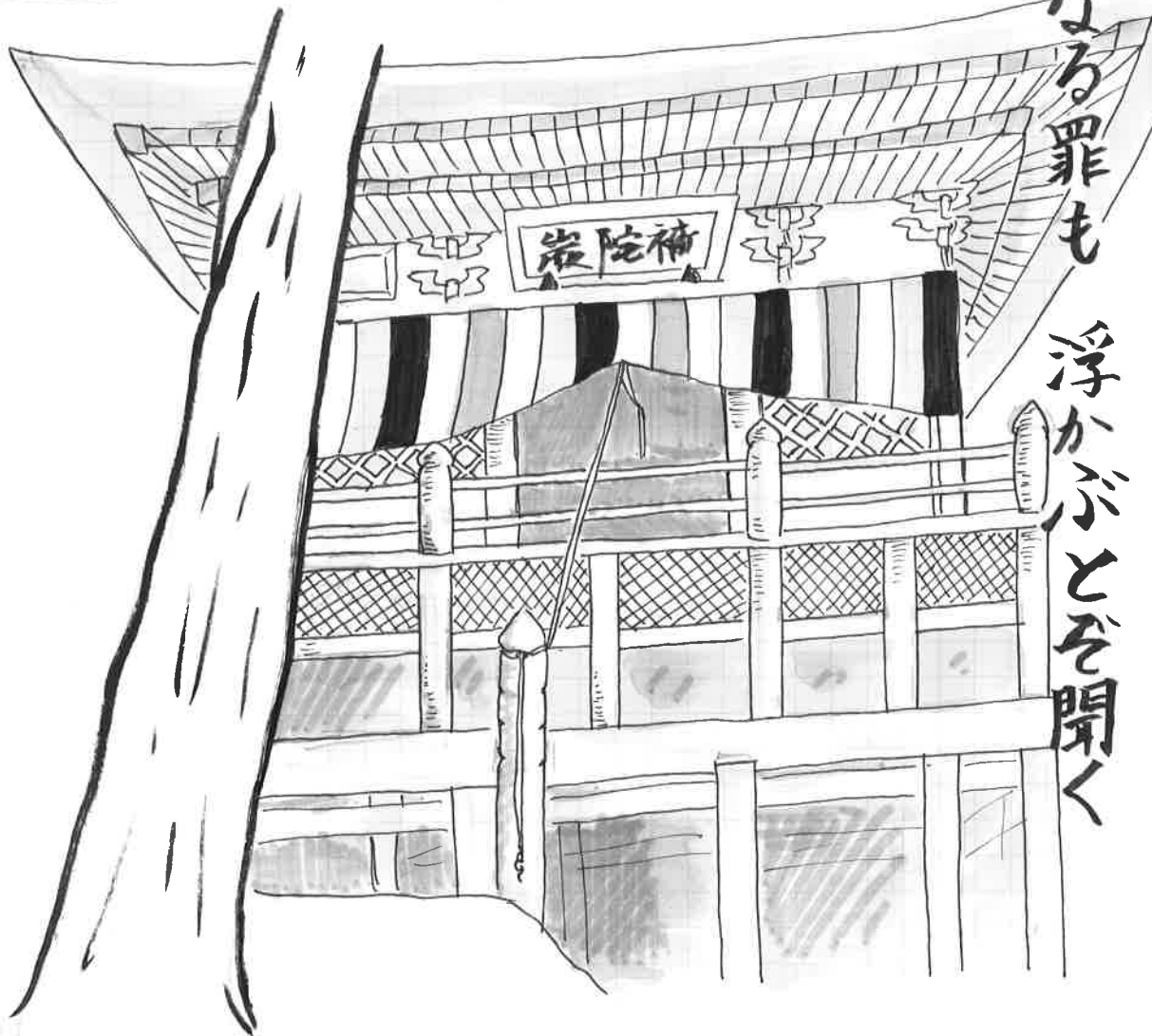
本尊は行基の作と伝えられ、一メートル三十八センチの立像です。冠の上に笠をかぶり、船をこぐ姿をしているところから、「お船観音」と呼ばれています。観音堂は江戸中期の造営で、岩山の下の崖に建てられ、堂外には岩屋石仏があります。また、周囲の岩には多くの穴があります。これは太古秩父に海が広がっていた時の浸食のあとだと言われています。

このお寺はこの地に嫁いできた娘が実家に帰ろうとした際、悪魚に襲われておぼれかけ、その時壁をかぶり舟をこいだ女人に助けられ、その女人こそが法性寺本尊の化身であるとして娘の父は大喜びし、涙ながらに三日三晩般若心経を写して供養したという縁起があります。

32番 行くなら コトライ!

### 「奥の院」

観音堂から五百メートルの山道をのぼるとあります。頂上には大日如来像と奥の院観音像があり、秩父の山並みも一望できます。



# 秩父札所甲午歳総開帳

## 三十三番 延命山菊水寺

春や夏 冬もさかりの菊水寺

秋の詠めにあくる年つち

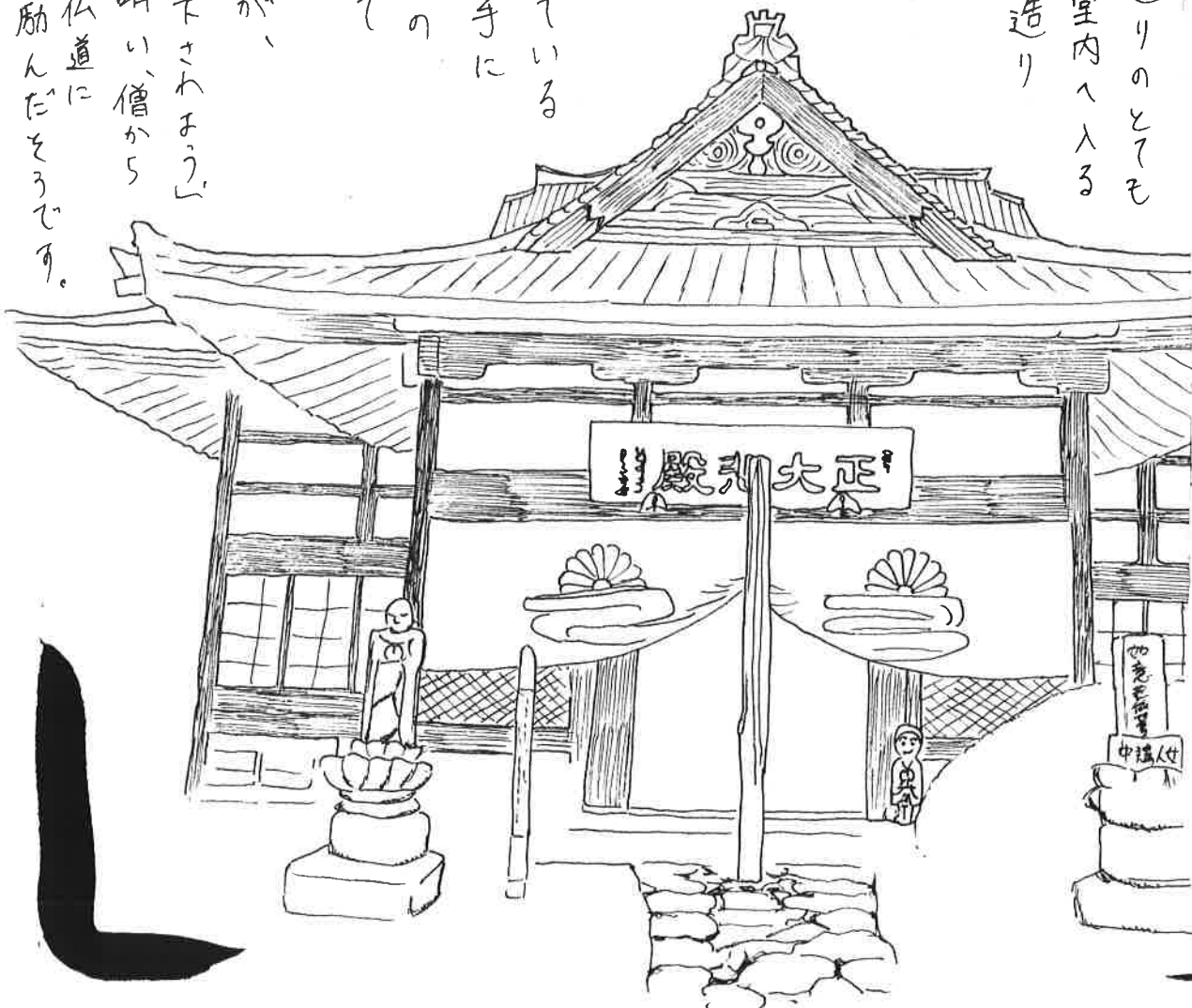
参道の正面に、開口八間、入母屋造りのとても風格のある観音堂があります。観音堂内へ入ると、とても広い土間で、立派な堂内の造りを拝見することができます。

昔、本寺の近くの峠に8人の盗賊が住みつき、悪事を繰り返していたため、8人峠と呼ばれ、村人々通行人から恐れられれていました。ある日そこへ旅の僧が通りかかりました。

盗賊はいつものように僧が身に付けている物を剥ぎ取ろうとしましたが、僧が手に印を結んだ途端、金縛りにあつたかのごとく、全く身動きができません。なつてしまいました。

そして「盗みの罪はまわめて重いが、今ここに心を改めるなら仏の慈悲が下さるまう」という僧の戒めに、盗賊たちは許しを請い、僧から与えられた3つの観音像を安置し、仏道に

励んだそうです。



# 張開総歳午甲所札父秩

## 寺潜山水山日 番四十三

萬代のねがいをここに納めおく

苔の下よりいづる水かな

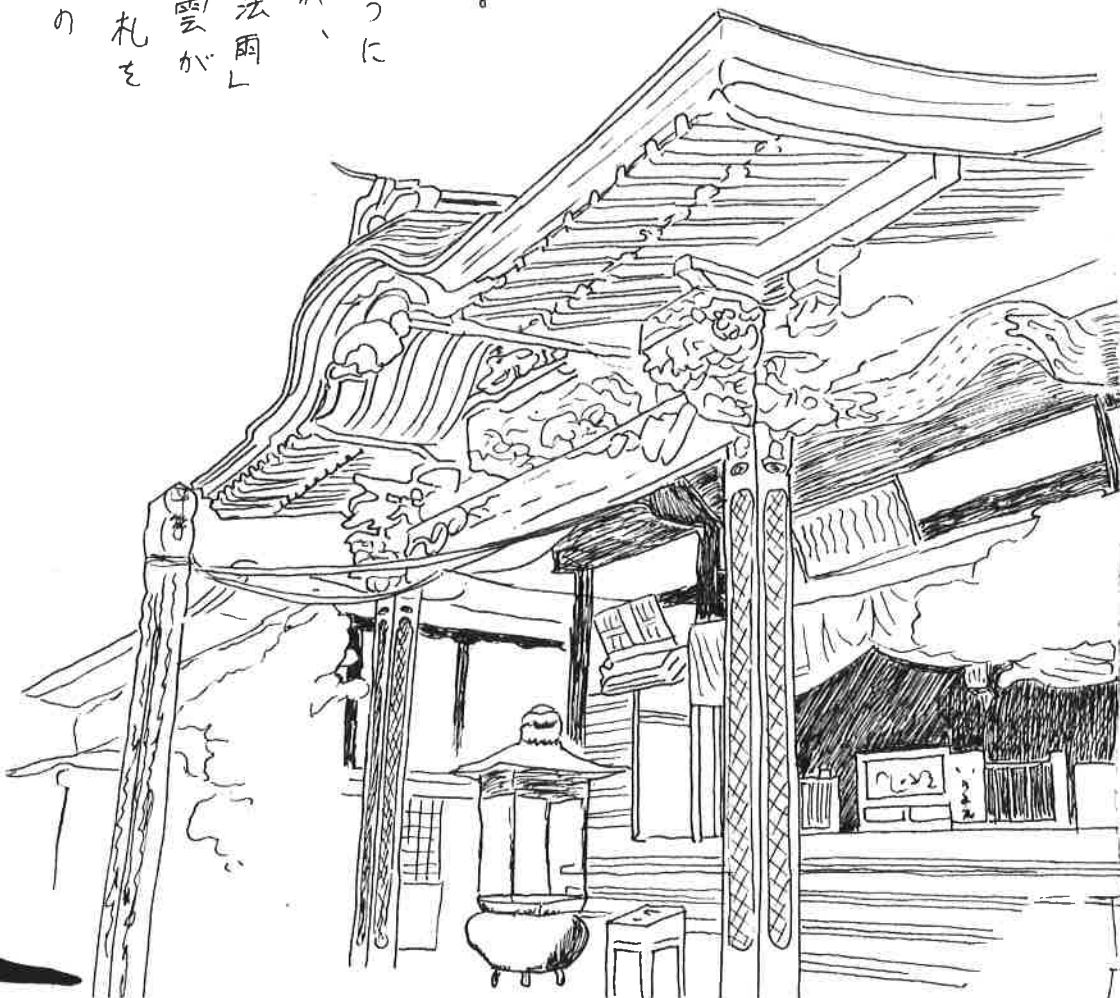
秩父札所三十四番の寺の前には、「結願の御砂ふみ」があります。平らな御影石には二つの足形が揃えて彫ってあり、この上に乗って手を合わせると、

西国33ヶ所、坂東33ヶ所、秩父34ヶ所観音霊場における巡礼の功德があると言

われています。観音堂に向か、右奥には自然の岩窟があり、清水が湧いています。

昔、秩父34ヶ所の巡礼を終えた人達が、ここで結願の水行をして、旅の荷物を解いたそうです。寺名はこの行事に由来します。

平安時代前期、この地は雨が降らず干ばつに苦しんでいました。そこへ一人の旅僧が現れ、村人に観音信仰を説き、木札に「樹甘露法雨」と墨書して立てました。すると瞬く間に雨雲が空を覆い尽くして雨が降りました。この、札を建てた所が札立峠、祈った所が水潜寺の始まりであると言われています。



# 里ごり はたおと秩父

## 昭和モダンの絹衣 1/10(土) ~ 1/17(土) @ 絹の家

NPの法人ちちぶ国際音楽祭主催の「昭和モダンの絹衣」という展示を見てきました。秩父在住で花織り人・銘仙語ソ部である木村和恵さんが所蔵している銘仙着物や昭和の時代に使われた調度品、養蚕を描いた浮世絵など、銘仙に関わる文化の展示がされています。絹の家という場所も古民家で雰囲気良く、全体で銘仙をとりまく世界観の感じられる素敵な展示でした。

同時開催で秩父出身のギタリスト宮久保仰さんによる機織歌のコンサートが行われました。機織歌とは秩父で織物全盛期であった明治から大正に機を織りながら歌われた仕事歌です。文化としては途絶えてしまいましたが、かつて高機を織りながら歌った人々の想いが宮久保さんの歌で蘇りました。私も当時の作り手の方々のことをもっと知りたいと思います。

また、二日間限定で木村和恵さんの銘仙を着付けてもらう企画もありました。私ももちろん参加し、アレンジに黒の縞模様で銘仙を着させてもらいました！やはり銘仙の色鮮やかさと独特の柄は素敵です。

### 秩父銘仙 113113ちてます!

- 1/30(金) 31(土) 絹の道祭典 @ 長野県岡谷市 肉果の絹肉係の産地が集結!
- 2/4(土) ~ 2/6(金) ギフトショー @ 東京ヒルソナタ 秩父グッズに秩父銘仙も大好!
- 2/19(木) ~ 2/24(火) WAZA2015 @ 池袋織物店 全国の工芸品の展示即売会です!

**お問い合わせ**  
 秩父市役所 商工課 地域おこし 協働隊  
 佐俣 菜津子  
 TEL: 0494-25-5208  
 MAIL: syoko@city.chichibu.lg.jp  
 商工課(地瑞産センター3F)か 553:銘仙館にいますことか 聞いてます☺

## 銘仙豆知識



### 機織り歌

機織り歌は明治から大正末期に歌われたものですが、歌っていたのは十二歳で年季奉公に出された娘たちです。世間も何も分からず、屋根裏で生活しながら機を織っていました。機織り歌にはいろんな種類の歌があります。「機が織れない機神様よ どうか日機のおれるように」など辛い思いを歌ったものや「村田工場で機織れば若衆が窓から文を投げ込む」という当時の恋愛がうかがえるもの、番頭さんへの文句を歌ったものなど、当時の機娘たちの感情がストレートに表現されています。

今では歌は娯楽や芸術の分野ですが、彼せたちの心の支えとなつたこの歌には、現代の歌にはないパワーを感じます。